

## 八幡鹿島山古墳の発掘調査について

【名称】八幡鹿島山古墳

【所在地】松江市八幡町字的場 894 外

【所有者】武内神社、個人、松江市

## 【調査概要】

当古墳は、竹矢公民館建替工事に先立ち令和 5 年 3 月に実施した試掘調査(st01)で発見された。現況から一辺 30mを超える規模の大型方墳と想定され、松江市を代表する古墳となり得ることから、工事計画を変更して現地保存することとした。さらに史跡指定を視野に入れ、令和 6 年度から追加の確認調査を実施することになった。

令和 6 年度に実施した第 1 次調査では墳丘東側と北側の周溝及び葺石を検出し、周溝内からは円筒埴輪が出土した。これらの成果によって 5 世紀前半に築造された一辺 40m程度の方墳であることが想定され、同時に周堤をもつ可能性が高いことも明らかとなった。こうした成果を受けて、周堤の有無や規模を明確にすることを主な目的として第 2 次調査を行うこととなった。

## (1) 周堤について

- ・削平を受けており規模は不明。
- ・周溝内に転落した遺物出土状況から、少なくとも埴輪列樹立スペースが存在したことは明らか。
- ・葺石は最下段に大ぶりの基底石をもつもので、非常に丁寧なつくり。

## (2) 出土遺物について

- ・周溝内から円筒埴輪、須恵器高坏、土師器、古代の須恵器が出土した。なお、朝顔形埴輪を中心に赤彩をもつものも出土した。

## (3) 築造時期

- ・円筒埴輪は底部高が突帯間隔より高くなり、廣瀬編年Ⅳ期のなかでも古相  
→古墳時代中期中葉、5 世紀前半か(石屋古墳より 1 段階前、廟所古墳段階)

## (4) 特徴について

- ・一辺 40m程度、単独で立地する 5 世紀前半の大型方墳。
- ・周堤が存在する可能性が高い(市内6例目※未確定含む)。

## 【今後の予定】

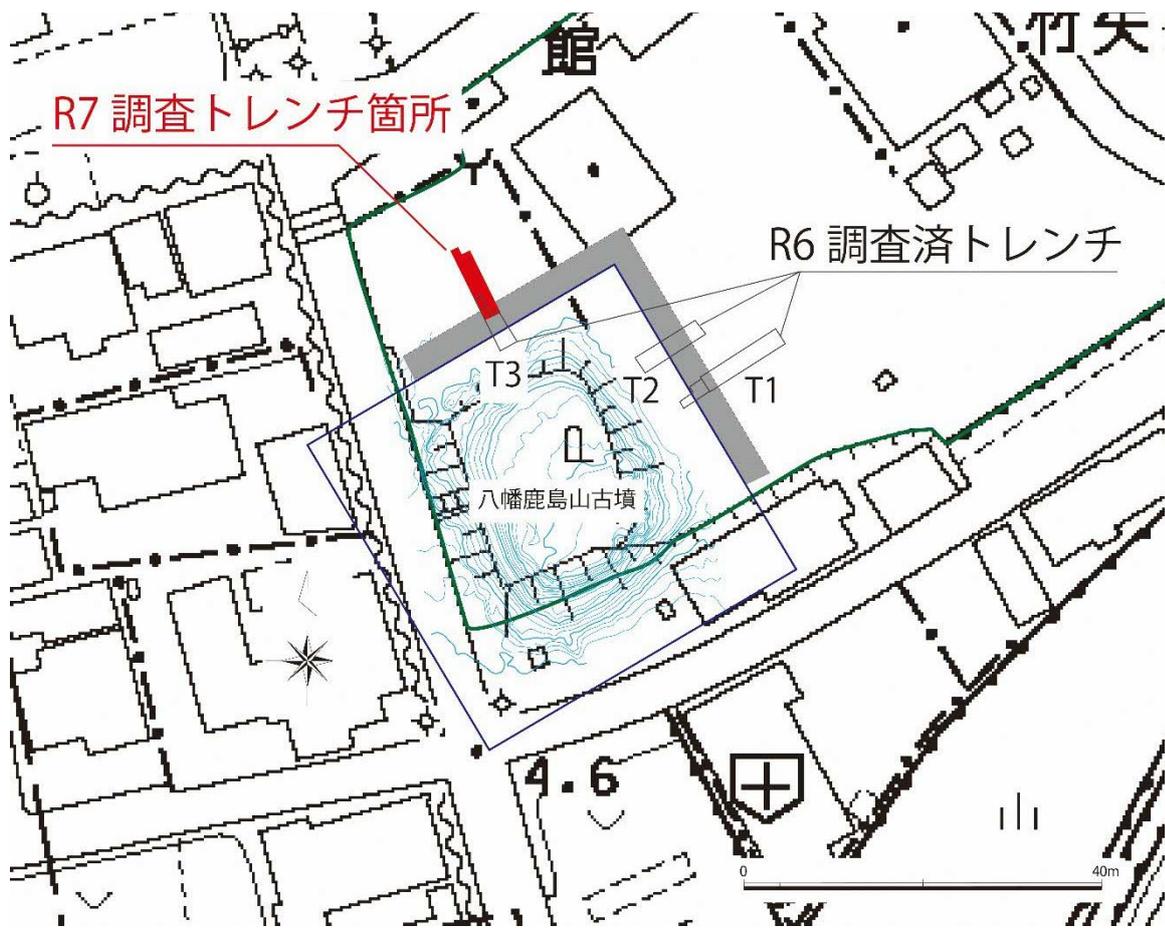
現状で把握できた遺跡範囲について、史跡指定を目指す。



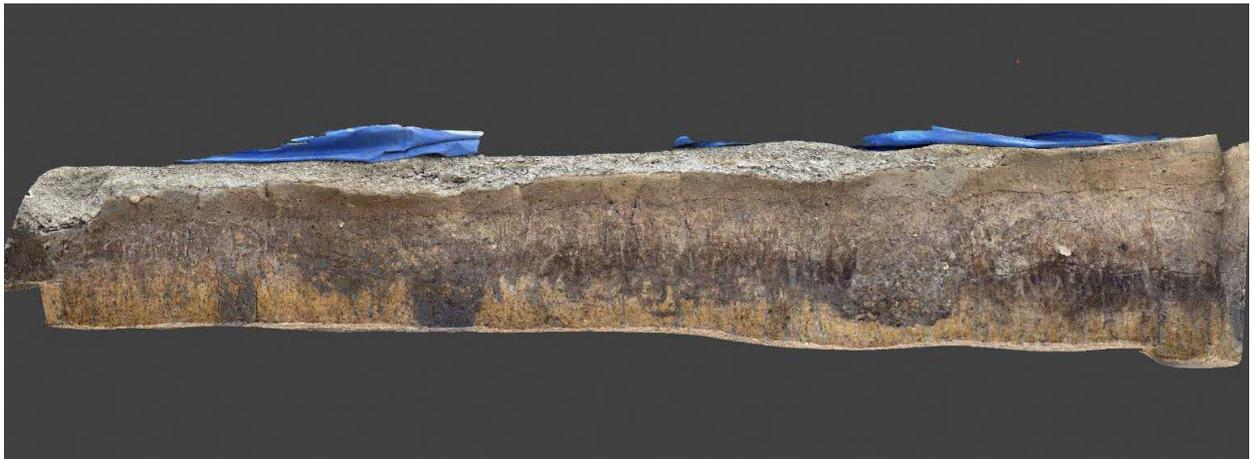
位置図



調査地全景（北東から、R6 年度調査時）



調査区配置図



土層堆積状況



トレンチ完掘状況



周溝内遺物出土状況



出土遺物（朝顔形埴輪）